

2012年度 差別をなくする市民の集い ～ハートFULL 新居浜～

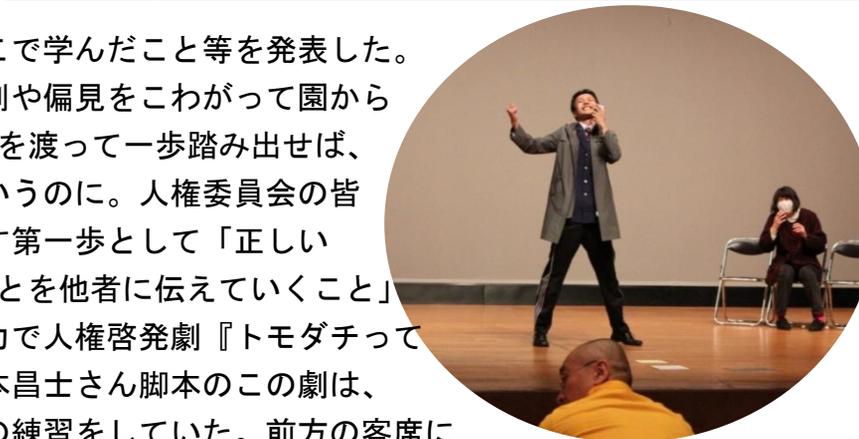
2月11日（月）市民文化センターで2月の「人権のつどい日」を兼ねた標記の会が開かれた。開演を待つ客席では、入り口で手渡された「新居浜市人権施策基本方針」や「身元調査をなくしましょう」という資料を読む姿がそこそこに見受けられた。

第一部は『人間回復の橋』のテーマで、新居浜南高等学校人権委員会の生徒さんらが夏休み中に岡山県にあるハンセン病



の国立療養所「長島愛生園」を訪れ、そこで学んだこと等を発表した。発表によると入所者は外部の人からの差別や偏見をこわがって園から外出しないという一園につながる『橋』を渡って一歩踏み出せば、そこは自由な、何の制限もない社会だというのに。人権委員会の皆さんは発表のなかで、差別や偏見をなくす第一歩として「正しい知識、見方を身につけること」「学んだことを他者に伝えていくこと」を語った。第二部は、劇団「笑夢」の協力の人権啓発劇『トモダチってなに?』を上演。田邊憲司さん演出、松本昌士さん脚本のこの劇は、公演も間近に迫った2月9日（土）通しの練習をしていた。前方の客席に音響機器を据え、ステージでの劇の進行に合わせて音出しのタイミング、音の大きさ等の確認が続く。そのところどころで演出から注文や指示があり、改めてその場面の演技が繰り返される。ステージでは、気持ちのよい緊張感が流れていた。

当日のステージでは、いじめに悩む一人の女子高生が友達やよそのおばあちゃんなどいろんな人間模様のなかで成長する姿が、観客席からの盛んな拍手で受け入れられる。また、オスとメスの2匹の動物が登場し、狂言まわしよろしく「人間って弱いんだよなあ」などのセリフで劇の場面を転換させ、味があった。また例年のことだが、ロビーでの出演者と観客との交歓の場面も楽しかった。



瀬戸会館だより
平成25年3月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

3月公演
回転木馬
おはなし会
3月6日予定
10:00~11:00
瀬戸児童館

泉川小学校「人権・同和教育講演会」から

1月27日（日）、泉川小学校において人権・同和教育講演会が行われた。演題は「うたのおもい」。講師は瀬戸会館 館長山本光博。会場となった同校体育館には4・5・6年児童、保護者、教職員の約360名が出席した。内容は、子どもたちになじみの深い童謡、『シャボン玉』『七つの子』『ぞうさん』をとりあげ、「うた」に込められた作詞者の思いについて語られたものであった。

たとえば、他の動物から「鼻が長い変な顔だね」とのからかいを受けて、子象は腹を立てるところか「そうよ、自分の一番大好きな、この世で一番尊敬しているかあさんもながいよ」と、象であることに誇りをもち胸を張る子象の姿をうたった『ぞうさん』など。おなじみのかわいい童謡ではあるが、そこに込められた人間にとって唯一無二の『命』への思い。「ちがい」はすばらしい「個性」ととらえ、親子が互いの存在に感謝しながら尊い『命』を育む姿など、“人間愛を基盤とした童謡”ならではの“うたのおもい”を通じて、命の尊厳について各々の立場で考える時間となった。



み・ご・と！！『佳作入賞』
～第10回全国隣保館だよりコンテスト～
館だより『ゆめじゅく』が、今年度のコンテストで佳作入賞を果たしました。全国の応募数355作品のうち、第一次審査を通過した59作品の中から最終審査で19点が入賞とされました。先日の四国ブロックの館長研修会の席で表彰されました。これからも、皆さんに関心を持って読んでいただけるように一層の充実を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

3月15日午後7時より「ゆめじゅく会」総会を開催します。会員の皆様のご出席をお待ちしています。

人権あらかると

ワンデイホームステイ（1）

～国際理解、偏見をなくす試み～

辛 淑玉（人材育成コンサルタント）

日本には、多くの外国籍住民が暮らしている。東京では14人に一人の割合で外国籍の子どもが生まれている。でも私たちがその隣人と触れ合う機会はとても少ない。知らないことも多い。そして、知らないがゆえに、国家同士の関係が緊張すると、無理解なこぶしが外国籍住民に振り下ろされるという現実がある。

「知らないことが差別や偏見を生む。もっと隣人のことを知ろうよ」そんな思いから立ち上げた企画が外国籍住民のお宅に泊る「ワンデイホームステイ～歩いて行ける世界の旅」（2001年3月16日開催）だった。国によって文化や宗教や習慣が異なるのは当然のこと。大切なのはその違いを理解すること。一緒に食事を作ったり、語り合ったり、お風呂に入ったり、同じ家で宿泊することで、互いの理解を深めよう、と。海外に行く必要なんてない。安くて、近くて、手軽にできる異文化体験。

ホームステイを受け入れてくれたのは、関東圏に暮らす韓国・朝鮮、中国、モンゴル、パキスタン、フィリピン、アメリカ、ビルマ国籍の家庭、そしてモスク（イスラム寺院）、多摩全生園（ハンセン病で闘ってきた人の中にはインドネシア国籍、韓国籍や朝鮮の方もいる）など全部で14ヶ所。

参加者はインターネットなどで募り、都内をはじめ全国から約70人、12才から60才までが参加した。

平成24年度 人権啓発講座（専門課程）開かれる

愛媛県人権啓発センターの主催する標記の講座が、1月25日（金）松山市の愛媛県美術館で開かれた。

テーマは二つで、講座1は『部落差別を超えて～取材ノートから～』。講師は元朝日新聞論説委員の臼井敏夫さん。講演は、橋下徹氏（大阪市長）に関する『週刊朝日』の報道記事の話から始まった。その感想を「あきれて、腹がたった」と端的な表現で語る。講師の職場経験から、新聞も雑誌も印刷、発行に至るまでにいくつかのチェックの場があるという。なのに、なぜこの記事が世の中に出てしまったのか、との無念さとその内容の差別性を指摘した。そのほか取材で見えてきたことについては、講師の著書『部落差別をこえて』（2010年刊、朝日新書）にそった内容であった。そして、「差別は集団をひとくくりにするところから始まるのではないか」とも語った。講座2は、演題が『いじめの理解と対応～自己肯定感で読み解く～』で、講師は愛媛大学非常勤講師の紅谷博美さん。このテーマは現在直面している社会問題ともいうべき、タイムリーなものであった。臨床心理士でもあり長く「いじめ」問題に取り組んでこられた紅谷さんは、サブテーマの「あるもの探し・いいところ探しの心と技」を習得すべく、多様な、わかりやすい資料を参加者に提供してくれた。

大改修が完了しました。
ご協力、大変ありがとうございました。



にぎやかにモチつき大会

2月3日（日）は瀬戸児童館のモチつき大会。空にはほんの数えるほどの雲があるだけで上天気。暖かい。玄関前の広場では、バンダナを付けた地域活動クラブのお母さん、お父さんたちがせわしく動く。2台の臼でつきあがってくるできたてのモチが、ドーンとテーブルの上に届く。それをお母さんたちが手でちぎって丸めながら、並んで待っている子どもたちに次々と手渡す。かわいいお皿におモチが2つ。先生の声が「おかわりOKですよ～。いろいろな味をためして下さい」「トッピングはなくなり次第終了で～す！」とスピーカーから聞こえる。

自転車置き場のところで出店よろしく、小学校4年生のジュニアリーダーの子どもたちがお手伝い。そこにはトッピング用のあんこ、大根おろし、チョコレート、さとうじょうゆ、きな粉などが並んでいる。子どもの人気はだんぜんチョコレート！全体的に見た人気は昔ながらの「さとうじょうゆ」だとか。

運動場にたくさん用意されたイスに腰をおろして家族でいただく。マイクが近づいて「なんぼたべよん？」と問い、「9コ目！」と男の子。続いて「10コ目いき！」の声に首を横に振る男の子。その横で、お母さんが子どもの口のあたりをハンカチで軽くたたいている。よく見ると、まだきな粉が口元に残っている。満足したのか、幾人かがブランコやスベリ台で遊びだす。「おモチつきの体験まだの人、やってみてくださいね～」と先生の声が聞こえる。楽しい、楽しい一日だった。



3月の主な行事予定 6・21日（水）－ 移動図書館
11日（月）－ 人権のつどい DVD「虎ハ眠ラズ」の視聴と話合